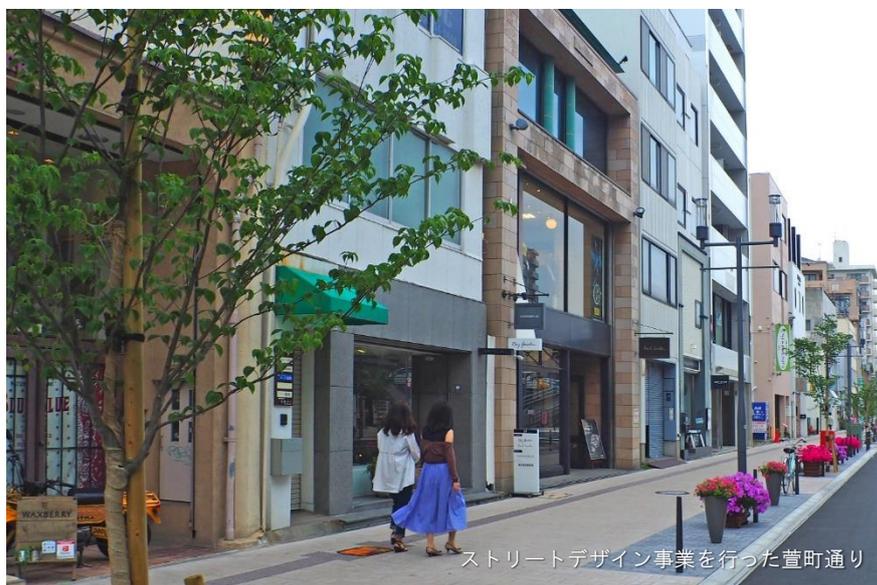


D. 市街地周辺

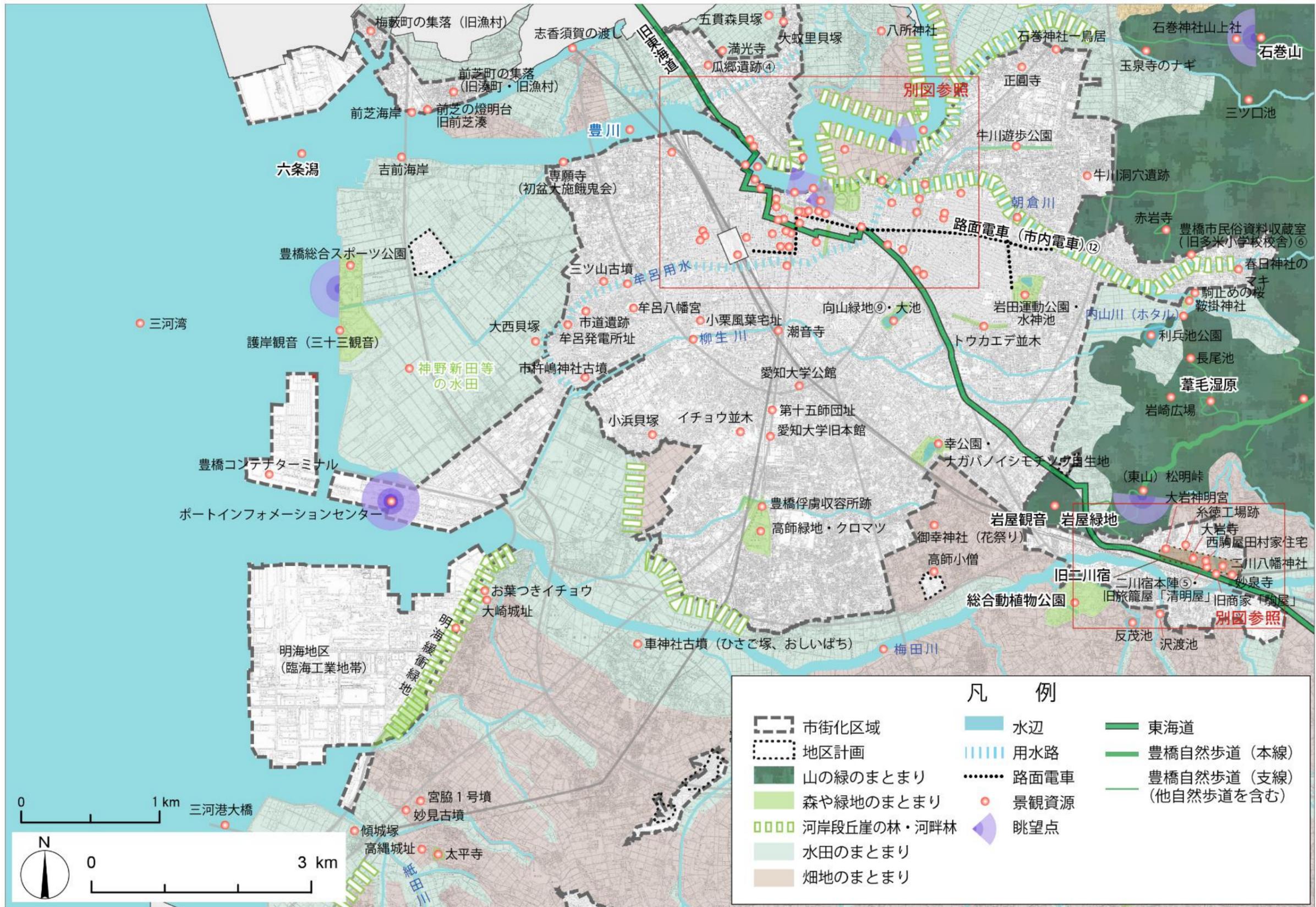
この地域は、中高層建築物が集積した豊橋駅周辺の商業業務地と、その周辺に広がる落ち着いた住宅地により形成されており、吉田城址や二川宿など、歴史の面影が色どく残る場もあります。市街地の周囲は、河岸段丘の斜面緑地や河畔林などによるグリーンベルトで縁どられています。

豊橋駅前からは、東部の住宅地に向けて路面電車が走り、本市固有の趣ある景観が見られます。また、地域全体には伝統行事のある社寺など、多くの歴史・文化の資源が点在するとともに、緑豊かな公園や街路樹がまちに潤いをもたらしています。

ここでは、豊橋駅周辺（D-1）と二川宿周辺（D-2）を後段に示し、前段にはそれ以外の範囲の景観資源を示します。



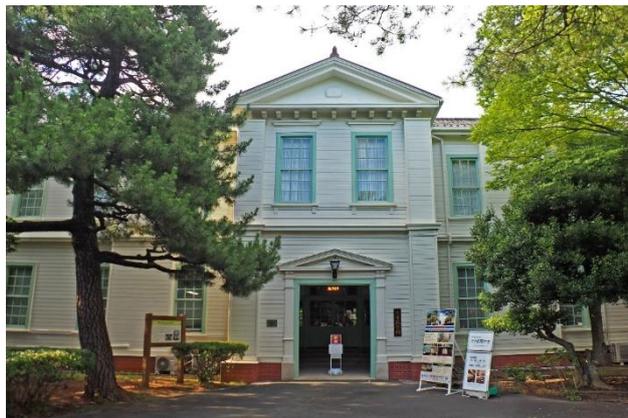
D 市街地周辺



あ

あいち だいがくきゅうほんかん
■ **愛知大学旧本館** 町畑町

陸軍第15師団司令部として明治41年（1908）に竣工した木造2階建ての建物で、明治末期の陸軍による兵営建築の手法をよく示しており、国の登録有形文化財になっている。コの字形の平面で、外壁に下見板を張り、装飾をあまり用いない簡素なつくりで、縦長の上下窓を均等に配置するなど標準化の傾向がみられる。



あいち だいがくこうかん
■ **愛知大学公館** 高師石塚町

明治45年（1912）に陸軍第十五師団長官舎として建てられた建物で、市の有形文化財に指定されている。洋館に和館が併設されており、洋館が公室、和館が私室として利用されていた。昭和21年（1946）愛知大学の開校後は、学長公舎、教職員宿舎となり、現在は愛知大学公館となっている。



あさくらかわ
■ **朝倉川**

弓張山地を源流とする一級河川で、住宅地を流れて豊橋公園の北側で豊川に合流している。上流部はNPOや市民、企業により植栽がされ、中流部は桜並木や親水空間が整備され、市民の暮らしに潤いをもたらしている。



い

いしまきじんじやいちのとりい
■ **石巻神社一ノ鳥居** 森岡町

石巻神社の鳥居で、石巻山の西側の少し離れた場所にある。かつては、霊峰石巻山の端正な姿が、鳥居を額縁として拝むことができた。現在は両側を道路に挟まれた細長い土地に、大きな白い鳥居が建っている。



いちみ いせき
■ 市道遺跡 牟呂町

古代から近世までの長期間にわたって続いた遺跡で、8～9世紀ごろの渥美郡の役人をしていた豪族の館跡や豪族の氏寺とされる寺院跡と、12～14世紀ごろの中世の寺院跡が確認されている。現在は、住宅地となり当時の面影はない。



いわ た うんどうこうえん すいじんいけ
■ 岩田運動公園・水神池 岩田町

市の東部にある水神池を中心とする公園で、池の周りには散歩道や親水空間が整備され、弓張山地を借景とした美しい眺めが得られる。公園内には、市民球場やテニスコート、ラグビー・サッカー兼用の球技場などのスポーツ施設があり、市民に親しまれている。



う

うしかわどうくつ いせき
■ 牛川洞窟遺跡 牛川町

昭和32年(1957)に石灰岩の採掘中に人骨とされる化石骨が発見された場所。現在は採掘により遺跡は滅失している。最初に発見された人骨とされる骨は、フィッシャーと呼ばれる岩の裂け目の中から多数の動物骨とともに出土して約10万年前のものと想定された。その後、昭和34年にも同じ鉱山で化石骨が採集されている。なお、近年の研究により、人骨とされた骨は、動物骨であると意見が相次いで表明されている。



うしかわゆう ほ こうえん
■ 牛川遊歩公園 西小鷹野他

幅約40m、長さ約1kmの細長い地区公園で、通称1キロ公園と呼ばれている。明治18年(1885)に歩兵第18聯隊の射撃練習場が建設された場所で、細長い跡地を利用して公園が整備された。細長い土地を周回するように並木が植えられ、緑陰の下を心地よく散策できる。



うりごう いせき
 ■ 瓜郷遺跡 瓜郷町

豊川下流域の沖積地に立地する弥生時代中期から古墳時代前期にかけての大規模な集落遺跡。湿地で稲作を行うとともに、漁労や狩猟により暮らしていたことが分かっている。国の史跡に指定されており、川治いの静かな公園内に竪穴建物が復元されている。



お

おお が さとかいづか
 ■ 大蚊里貝塚 大村町

縄文時代の貝塚で、素戔鳴神社一帯にある。標高約2.5mの自然堤防上に形成された、ヤマトシジミ主体の貝塚と考えられる。縄文土器のほか、土偶や石剣なども出土している。



か

かすがじんじやの まき
 ■ 春日神社のマキ 多米東町

春日神社のご神木で、高さ16.8m、幹周343cm、推定樹齢400年以上とされており、市の天然記念物に指定されている。他に2本の巨木もある。マキは中生代からある針葉樹で、海岸部に多く、防風林として利用される。



こ

こ はまかいづか
 ■ 小浜貝塚 小浜町

縄文時代前期～晩期の貝塚で、小浜神明社境内地とその周辺に分布している。ハマグリやマガキなどの貝塚で、縄文土器が出土しており、埋葬人骨も発見されている。



し

しょうえん じ
■ **正圓寺** 牛川町

寺の歴史は古く、伝説では古代まで遡るが、延文年間（1356～61）に嵩山正宗寺の和尚が再興・改宗した。文明年間（1469～87）には、戸田宗光によって莊円寺が建てられ、のち、江戸時代に正圓寺に改称したと伝えられる。平安時代末期から鎌倉初期の作とされる薬師如来坐像と地藏菩薩立像（市指定有形文化財）がある。



せ

せんがん じ
■ **専願寺** 馬見塚町

専願寺はもと専求庵といい、明治13年（1880）に専願寺と改称している。大施餓鬼会は、数百年の歴史を持ち、毎年7月31日の午後から翌8月1日にかけて夜を徹して行われる。初盆の家は宗派を問わず各地から訪れ、境内は参詣人でいっぱいになる。あの世に旅立った肉親に似た人が必ず見つかるといわれている。



た

だいじゅうご しだんあと
■ **第十五師団址** 町畑町

明治40年（1907）、陸軍省が豊橋に第15師団を置くことを決定し、現在の愛知大学や高師緑地公園を中心とする約50万坪の敷地に多くの施設がつくられた。現在、これらの敷地は、愛知大学、時習館高校、豊橋工業高校等の学校や公共施設として利用されている。



たかしりよくち くろまつ
■ **高師緑地・クロマツ** 高師町

かつて高師原陸軍演習場として使われていた場所で、昭和42年（1967）に約24.2haの公園として開設された。緑豊かな広大な園内は、散歩やジョギング、乗馬など多目的に利用されている。緑地全体にクロマツが生えており、戦時中に松脂を採集した後を見ることができる。



ち

■ 潮音寺 ちょうおんじ 小池町

創建は不明であるが、塩満山潮音寺由来記によると、行基作の観音像がこの地の岸に漂着し、これを祀ったのが起源とされている。後に、伽藍を現在の場所に移したが、昭和20年(1945)の豊橋空襲で山門を残して全伽藍を焼失した。この山門は木彫で、市内では数少ない仁王像が安置されている。

■ トウカエデ並木 とうかえでなみき

トウカエデは、江戸時代初期に中国から渡来し、日本各地に植栽された落葉高木で、春には瑞々しく芽吹き、夏には緑陰をもたらし、秋には黄色や紅色に色づく。市道伝馬町・岩崎町5号線のトウカエデ並木は、東部丘陵に向かって木々が繋がり、秋の紅葉は特に美しい。



ま

■ 満光寺 まんこうじ 瓜郷町

創建は、大永5年(1525)と伝えられ、室町將軍より寺領の寄進を受けていたとされている。天文8年(1539)に大津波ですべてを流出したが、慶長3年(1598)に再興された。銅鐘は、まれにみる名鐘で、市の有形文化財に指定されている。



み

■ 三ツ山古墳 みつやまこふん 牟呂町

豊川中流域が見渡せる台地上に、前方部を北西に向けて造られた前方後円墳である。全長34m、前方部は幅16m、高さ3m、後円部は直径18m、高さ3.5mある。円筒埴輪が出土している。現在、古墳は、墳丘を利用した児童公園になっている。



みゆきこうえん ながばのいしもちそうじせいち
■ **幸公園・ナガバノイシモチソウ自生地** 佐藤町

幸公園は、区画整理事業に伴い整備された公園で、農業用ため池の長三池を中心に整備された。池の中央には幸福橋が架かり、周辺には遊歩道が整備され、市民の憩いの空間になっている。公園内の一角には、食虫植物ナガバノイシモチソウが自生する湿地があり、県の天然記念物に指定されている。



みんぞくしりょうしゅうぞうしつ きゅうためしょうがっこうこうしゃ
■ **民俗資料収蔵室（旧多米小学校校舎）** 多米町

市内に残る唯一の木造瓦葺の校舎で、昭和19年（1944）建築の本棟と昭和29年（1954）建築の西棟がある。国の登録有形文化財になっており、敷地内には二宮金次郎の像もあり、山を背景にした落ち着いた校舎は、昭和の時代の懐かしい景観を保っている。



む

むかいやまりよくち おおいけ
■ **向山緑地・大池** 向山大池町他

大池は、江戸時代、吉田城の外堀に水を流す目的でつくられた池で、現在は池を中心に緑地が整備されている。池の周辺は緑豊かな散策路になっており、市の花「ツツジ」が約1万本植えられている。冬になると池には多くの渡り鳥が飛来する。また、西側には、梅林園やさくら広場もあり、四季を通じて自然を感じられ、市民の憩いの場になっている。



む ろ はちまんぐう
 ■ 牟呂八幡宮 牟呂町

文武天皇元年（697）の創建といわれている。貞応元年（1222）鎌倉将軍の命により、鎌倉鶴岡八幡宮を手本にして三方に大門・三池をめぐらし、市杵島社、若宮八幡社、武内社などを勧請した。昭和20年（1945）6月の空襲により社殿が被災したが、同24年（1949）に再建した。



む ろ はつでんしょあと
 ■ 牟呂発電所址 牟呂大西町

豊橋電燈株式会社が、明治29年（1896）に設けた発電所で、当時、通水したばかりの牟呂用水を水源とした。牟呂用水に樋門を設け、せき止めた水を導水路で下流に誘導して、落下地点に井戸を掘り落差を大きくして発電機を回転させたとわれ、火力発電を併設していた。



む ろ ようすい
 ■ 牟呂用水

豊川の牟呂松原頭首工（新城市）から取水し、市街地を抜け、神野新田に至る農業用水路。水路沿いは比較的緑が多く、市街地に緑の潤いをもたらしている。中心市街地では、用水上に約800mにわたって水上ビルが建設されている。



や

や きゅうがわ
 ■ 柳生川

市街地を西に向かって流れ、三河湾に注ぐ二級河川で、水車橋から東小池橋の間は桜並木や石積み護岸により親水空間が整備されている。下流部は、昭和11年（1936）に完工した柳生川運河で三河港の区域に入っている。



D-1. 豊橋駅周辺



路面電車が乗り入れる豊橋駅東口駅前

あ

あ く み かん べ しんめいしや おにまつり
■ **安久美神戸神明社（鬼祭）** 八町通三丁目

天下の奇祭「鬼祭」が行われる神社。本殿や拝殿などは、国の登録有形文化財になっている。毎年2月10、11日に行われる「鬼祭」は、千年余りの歴史を持ち、国の重要無形民俗文化財に指定されている。赤鬼と天狗の「からかい」では、敗れた赤鬼が境内をでて町内をかけ回りタンキリ飴を振りまく。



あずまだ こふん
■ **東田古墳** 御園町

5世紀頃に造られた前方後円墳で、全長40m、前方部は幅16m・高さ4m、後円部は直径20m・高さ3mある。この地方を支配していた豪族の墓であると考えられている。現在は、東田神明社の西側にこんもりとした小さな森を形成しており、墳丘上に御嶽社が建っている。



お

おしだ ごぼう しんしゅうご かでら
■ **吉田御坊と真宗五ヶ寺** 花園町他

吉田御坊とは東本願寺の豊橋別院のことで、真宗五ヶ寺とは、蓮泉寺・応通寺・仁長寺・小琳寺・浄円寺の真宗派の五ヶ寺をさしている俗名である。真宗五ヶ寺は、吉田御坊の参道に面して建ち並んでいたといわれ、吉田御坊の住職を務めることが主な役割であった。現在は、浄円寺が大村町へ移転したため、四ヶ寺がこの地に残り、浄土真宗をおこした親鸞の徳をたたえる報恩講が交代で行われている。



き

きゅうは だ の けじゅうたく
■ **旧羽田野家住宅** 花田町

図書館の先駆とされる羽田八幡宮文庫を主宰した神主の住宅で、主屋、蔵、門が国の登録有形文化財になっている。主屋は、江戸中期の建物で、羽田八幡宮社務所離れになっている。主屋に繋がる蔵は、羽田八幡宮文庫の書庫として使われていた。



きゅうよし だ おおはし
■ 旧吉田大橋 船町

旧東海道の豊川に架かっていた橋で、天正 18 年 (1590)、吉田大橋として架設され、その後、幾度も改築され、「豊橋」とも称されていた。明治 12 年 (1879) の改築時に正式に「豊橋」に改称された。大正 5 年 (1916) には、3 連アーチ式鉄橋が完成した。現在の「豊橋」の下流 70m のところに旧吉田大橋跡の碑が立つ。



<

きどお くすの きなみき
■ くすの木通り (クスノキ並木) 八町通他

シンボルロードに位置付けされている通りで、道の中央に市の木「くすのき」の大木が 35 本植えられており、緑豊かな景観を形成している。通りは無電柱化と道路景観整備が行われ、沿道を含めてまちづくり景観形成地区に指定されている。クスノキ並木は、とよはしの巨木・名木 100 選に選ばれている。



け

け や きなみき こくどう 23 ごと
■ ケヤキ並木 (国道23号) 八町通他

国道 23 号の起点部の中央分離帯に植えられたケヤキ並木で、42 本の大木が市街地に潤いをもたらしている。推定樹齢は 50 年以上とされ、とよはしの巨木・名木 100 選に選ばれている。



こ

ごしんじ
■ 悟真寺 関屋町

江戸時代、龍拈寺・神宮寺と並んで吉田三か寺に数えられた浄土宗の名刹。創立は貞治 5 年 (1366) で、開山は善忠である。永正 2 年 (1505)、牧野古白が今橋城を築いた時、現在地に移転した。江戸時代には、家康・秀忠・家光などの歴代将軍や朝鮮使節の宿泊所としても利用された。昭和 20 年 (1945) の豊橋空襲によって焼失し、現在は、鉄筋コンクリート造の本堂と庫裏などがある。



■ みらいかん **こども未来館（ここここ）** 松葉町

未来を担う子供達や様々な世代の市民が、遊びや体験を通して交流できる拠点で、平成 20 年に開館した。屋外には芝生広場が整備され、中心市街地の都市空間に賑わいと潤いある景観を創出している。



し

■ しょうげんじ **聖眼寺** 下地町

豊川に架かる豊橋を渡り、旧東海道を川に沿って西に進むと右手に山門が見える。平安時代のはじめ、吉祥山の麓に天台宗寺院として開山したが、浄土真宗に改宗し、下地郷（元下地）へ移る。さらに東海道の改修により慶長 9 年（1604）現在地へ移転した。古来、三河高田三か寺の一つといわれ、幕府や朝廷から厚遇を受けていた。



■ じょうじいんじぞうどう **浄慈院地蔵堂** 花田町

浄慈院は、元は浄土・律・真言・天台の四宗兼学の寺風をなしていたが、現在は、浄土宗の寺院である。開山当時から寺子屋を開いていた。地蔵堂は、享保 12 年（1727）の竣工で、市の有形文化財に指定されている。正面 3 間、側面 2 間の建物で、緑に囲まれた境内に静かに建っている。



■ じょうやとう **常夜燈** 八町通

吉田宿の東惣門前に文化 2 年（1805）に建てられた常夜燈で、市内では最大のもので高さ約 5 m ある。地震により倒壊し、放置されたり、別の場所に移築されたりしていたが、平成 13 年（2001）に、本来の場所に近い現在地に移転整備された。市の有形民俗文化財に指定されている。



■ じんぐうじ みが じぞう
神宮寺（身代わり地蔵） 魚町

比叡山延暦寺の末寺で、天台宗の名刹である。昭和20年（1945）の豊橋空襲で焼失するまで、護摩堂・本堂・山門などの伽藍はおおむね維持されていた。現在は、本堂と朱塗りの地蔵堂がある。地蔵堂には、民話「身がわり地蔵」の地蔵があり、現在でも信仰をあつめている。



■ しんこうじ
真光寺 下地町

聖眼寺の東隣にあり、もともとは聖眼寺の塔頭で、真光坊と呼ばれていたが、創立年代は不明である。明治9年（1876）に専修寺直属の末寺となり、昭和17年（1942）に寺号を真光寺と改めた。本尊の阿弥陀如来立像は、室町時代作と推定され、市の有形文化財に指定されている。



す

■ すさのおんじや の だちょう
素蓋鳴神社（野田町） 野田町

応仁元年（1467）、祇園精舎の守護神である牛頭天王を鎮守の神に迎えて祭祀したのが創始とされる。牛頭天王は、素戔鳴尊と結び付けて信仰されたが、明治初期の神仏分離より、素戔鳴神社と改めた。例祭には、小学生による稚児神楽が神前で奉納される。



せ

■ ぜんきゅういん
全久院 東郷町

二連木城主戸田憲光が、亡父宗光の追善供養の為に城の西方に建てた寺である。創立年次は諸説あるが、通常永正11年（1514）といわれる。戸田家が松本へ移ったのちも戸田家先祖代々の墓所として、明治に戸田家が神道に改宗するまで篤く保護された。その後は、当時の住職は寺を一般の人々に開放し、以後、人々の篤い信仰を受けている。



とよはしえき
■ 豊橋駅 花田町

明治 21 年（1888）、東海道線の浜松～大府間の開通に伴い開業した。昭和 20 年（1945）の豊橋空襲で駅舎は全焼したが、昭和 25 年（1950）に全国初の民衆駅が開業した。昭和 39 年（1964）には、西口に東海道新幹線の橋上駅が開業。その後、昭和 45 年（1970）にステーションビルが建築された。平成 8 年には、豊橋駅総合開発事業により橋上駅舎やステーションビルの増改築、東口駅前広場の整備が行われ、現在の姿となった。



とよはしえきひがしぐちえきまえひろば
■ 豊橋駅 東口駅前広場 花田町

豊橋駅東口の交通広場で、都市の顔にふさわしいシンボリックな楕円形のペDESTリアンデッキが整備されている。デッキ上は緑化され、多目的に活用できる円形広場が設けられ、市民や来訪者の憩いの場になっている。広場内には、路面電車が乗り入れている。



とよはしこうえん
■ 豊橋公園 今橋町

吉田城址のある公園で昭和 24 年（1949）に開設された。21.6ha の敷地には、美術博物館などの文化施設、野球場や陸上競技場などのスポーツ施設がある。明治以後は旧日本軍の部隊がおかれた事もあり、一部その名残も残っている。豊川に接しており、緑が深いため、四季を通して様々な野鳥も見られ、市民の憩いの場になっている。



とよはししこうかいどう
■ 豊橋市公会堂 八町通二丁目

ロマネスク様式を基調とした鉄筋コンクリート造の近代建築で、昭和 6 年（1931）に竣工し、国の登録有形文化財になっている。路面電車が走る国道 1 号沿いに建っており、風格ある雄姿は、豊橋のシンボリックな建物となっている。



とよはし はり す と す せい きょう かい
■ 豊橋ハリストス正教会 八町通三丁目

明治8年(1875)から三河地方への正教会の布教がはじまり、大正2年(1913)に建築された。木造下見板張り銅板葺きの美しい姿の教会で、豊橋公園に隣接する静かな環境に建っており、国の重要文化財に指定されている。



に

に れん ぎ じょう し
■ 二連木城址 二連木町

二連木城は、田原方面で勢力を誇った戸田氏の城の一つである。城址は、大口公園となっている本丸址、老人福祉センターのある二の丸址、本丸周囲に空堀のあとと思われる段違いの地形が残っているが、付近一帯は住宅地などに変わっている。



は

は だ はちまんぐう
■ 羽田八幡宮 花田町

社伝によると白鳳元年(672)の創立と伝えられる。毎年10月に、豊橋の三大祭の一つと言われる羽田祭が行われる。例祭は、乙女の舞・浦安の舞が奉納され、花神輿・獅子舞が彩を添える。宵祭りには、手筒・大筒花火が揚げられる。また、毎月1と5のつく日には、境内で朝市が行われる。



ひ

ひがし そうもんあと
■ 東惣門跡 八町通五丁目

東惣門は、東海道吉田宿の東の出入口で、江戸時代には東海道のまたがって南向きに建てられていた。門の傍らには十二畳の上番所、八畳の下番所などがあった。惣門は、午前6時から午後10時まで開けられており、それ以外の時間は一般の通行が禁止されていた。現在は、門のあった辺りに、西惣門とともにモニュメントが設置されている。



ひゃっか えんあと
 ■ 百花園跡 関屋町

豊川を臨む場所に、四季折々に風情のある花畑と、その一面に建つ料亭からなっていた。開園、廃止ともに不明であるが、明治中期頃まで新聞等の記録に多く現れている。豊橋を訪れた知名士を接待する場として使われ、付近には商家の別宅や風流人の居宅が多くあり、文化的雰囲気があった。現在は、吉田神社の横にある吉田会館の前に標柱があるのみである。



ふ

ふ どういん
 ■ 不動院 瓦町通一丁目

寺伝によれば、不動院が建てられたのは久寿元年（1154）である。平安時代末期、京の都の貴族が二運木にお堂を建て不動尊を祀った。その後、瓦町が開かれ、城主小笠原家より土地の寄進をうけ現在地に移った。現在、鉄筋コンクリート造 2 階建ての本堂には、弘法大師と不動尊を祀り、東海道に面していた山門も本堂前に移されている。



ほ

ほ くに げいじゅつけきじょう ぷらっと
 ■ 穂の国とよはし芸術劇場（プラット） 西小田原町

東三河地域における芸術文化の創造発信及び交流の拠点として、豊橋駅の南口に整備され、平成 25 年に開館した。舞台芸術を中心とした施設で、中心市街地の都市空間に、賑わいある新しい景観を創出している。



ほ へいだいじゅうはちれんたいあと
 ■ 歩兵第十八聯隊跡 今橋町（豊橋公園）

歩兵第十八聯隊は、明治 17 年（1884）に編成され、明治 19 年（1886）に現在の豊橋公園に位置する豊橋分営に移駐した。日清戦争から太平洋戦争まで多くの作戦に動員された。現在は、豊橋公園入口に営門と哨舎が残り、公園内に歩兵第十八聯隊跡の碑が建立されている。



み

■ 湊神明社（御衣祭）・湊築島弁天社 湊町

湊神明社の創建は7世紀頃とされる。かつてこのあたりは吉田御園といい、伊勢神宮の荘園であった。御衣祭は、三ヶ日の初衣神社で織った絹糸の布を湊神明社まで運び、吉田湊から伊勢神宮に奉獻する儀式で、元和年間（1615～24）に始まり、吉田城下最大の祭りであった。湊築島弁財天社は、湊町公園の池の中の島に建てられており、入母屋造本瓦葺の三間堂で、国の登録有形文化財になっている。



や

■ 安海熊野社と魚市場 魚町

安海熊野社は、社伝によると保延2年（1136）鳥羽上皇の命により快円が建立したといわれる。古くは安海熊野権現社といい、札木町にあったが、吉田城地拡張に伴い現在の場所に移転した。吉田の魚市は戦国時代末期に始まるとされ、神社に対する魚売買の特権が保障され、その保障は、魚商人の特権に対する保障となり、魚町などを中心に魚の取引が行われた。魚市場は昭和41年に下五井町に移転した。



よ

■ 吉田宿 札木町他

吉田宿は、東海道が慶長6年（1601）に設定された当初からの宿駅で、江戸日本橋から34番目に位置していた。宿は、東海道に面した表町12町と裏町12町の計24町で構成されていた。宿場の中心は札木町で、問屋場・本陣・脇本陣などの主要施設が集中し、大手門前の辻には高札場があった。現在は、古いまち並みは残っておらず、旧東海道沿いに本陣跡の碑などが置かれている。



■ 吉田宿問屋場跡 札木町

問屋場は、道中奉行所支配のもと各宿駅に置かれ、主な任務は人馬継立を円滑に行い、旅客貨物等を目的地に送ることであった。人馬を使用するのは、御朱印または御証文によって使用を許可された公用旅行者が優先で、しかも無料であった。これらの人馬の差配は、問屋場役人によって行われた。現在は、旧東海道沿いに、問屋場跡の碑が置かれている。



よしだじょうし
 ■ 吉田城址 今橋町

永正2年(1505)、牧野古白が今橋城を築城し、その後、城をめぐる争奪戦が続き、その中で吉田城に改名された。天正18年(1590)、池田輝政が城主となり、広大な城に整備拡張された。昭和29年(1954)の豊橋産業文化大博覧会に際して、鉄筋コンクリート造の鉄櫓が再建されている。



よしだじんじゃ とよはしぎおんまつり
 ■ 吉田神社 (豊橋祇園祭) 関屋町

古くは天王社と称し、多くの武将たちから崇拝を受け、特に源頼朝が深く崇拝した。毎年7月に祇園祭が行われ、手筒花火の奉納や、豊川河畔での打上花火大会が行われる。手筒花火は、吉田神社が発祥の地と言われている。



よしだしんげにざあと
 ■ 吉田新銭座跡 広小路三丁目

江戸時代に「寛永通宝」を鑄造した場所で、白山比咩神社の境内の一角にある。寛永13年(1636)、幕府は新銭を鑄ることを決めて、江戸と近江の坂本の二か所で寛永通宝を鑄造したが、これだけでは不足するため、寛永14年に、諸藩のうち八か所を選んで新銭の鑄造を拡大した。吉田新銭座はそのうちのひとつである。



よしだみなと
 ■ 吉田湊 船町

吉田湊が開かれたのは近世初頭であり、その由来は、慶長5年(1600)関ヶ原合戦に際し、船町の人々が数十隻の持ち船を出して協力した功労を池田輝政が認めたことによる。満潮時には三河湾から帆船が入港できた上、東海道の道筋にあたり、伊勢参宮などの旅人でにぎわった。また、奥三河まで川船が通じ、物資はここで廻船に積み替えられて江戸や全国各地へ運ばれた。



り

■ 龍拈寺 (山門) 新吉町

創立当初の詳細は不明であるが、初めは無名の小庵であった。江戸時代には、吉田三か寺に数えられる名刹となり、三河地方の曹洞宗屈指の寺院であった。吉田城主を大檀那として、末寺三六、塔頭四院を擁する大寺院となった。山門は、戦火を免れた当寺唯一の江戸時代の遺構で、市の有形文化財に指定されている。



■ 臨済寺 東田町

江戸時代初期、吉田藩主小笠原忠知が豊後国（大分県）にいたとき、宗玄寺を建てたのが始まりで、忠知が吉田へ国替えするとき、宗玄寺も吉田に移された。寛文4年（1664）、現在の位置に移され、萬年山臨済寺に改められた。しかし、明治初期の廃仏毀釈運動や昭和20年の豊橋空襲等により山門と稲荷堂のみが残った。その後、意欲的な復旧が継続され、今日に至っている。



ろ

■ 路面電車

大正14年（1925）に開通し、戦災やモータリゼーションの進展など、幾多の困難な時代を経たが、現在も市民に愛されて走り続け、豊橋のシンボリック的存在になっている。中心市街地内はセンターポール化され、駅前大通りの一部は軌道緑化されている。平成20年には、全面低床車両「ほっとラム」が導入された。



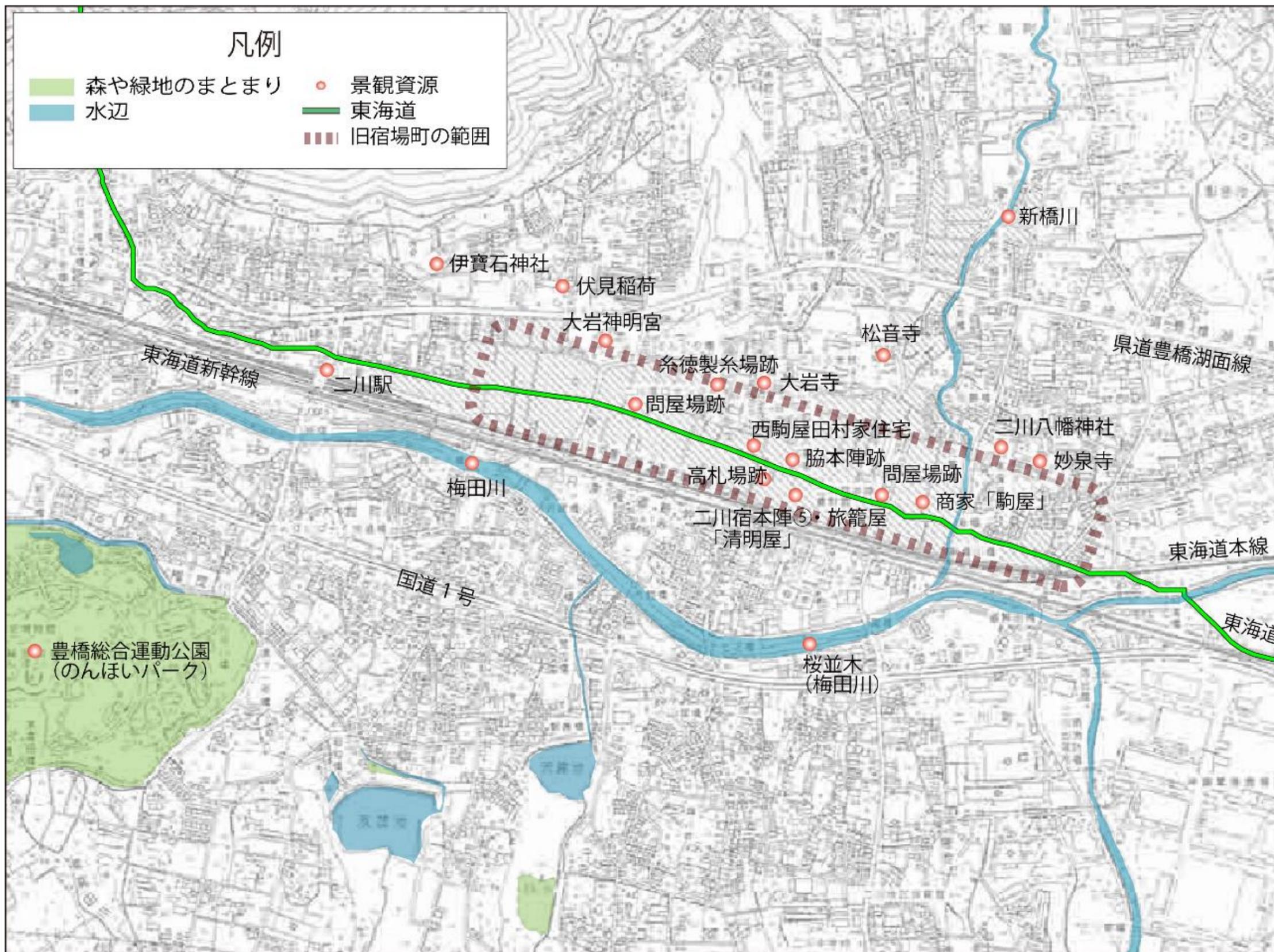
D-2. 二川宿周辺



二川宿の商家「駒屋」横の瀬古道



二川八幡神社の例祭の山車



い

■ 糸徳製糸場跡 いとくせい しじょうあと 大岩町

糸徳製糸場は、小淵志ち（1847～1929）が二川に設立した製糸工場である。志ちは、玉糸（玉繭という二匹の蚕がつくった繭から取り出した糸）による製糸に成功し、明治二十年半ばには、糸徳製糸場は玉糸専門の工場になった。その後、二川・豊橋は「玉糸の町」として知られるようになった。



お

■ 大岩神明宮 おおいわしんめいぐう 大岩町

文武2年（698）、岩屋山南麓に勧請したことに起源を持ち、大岩町の氏神となっている。寛延4年（1751）の燈籠、文化4年（1807）の秋葉山常夜燈、文政6年（1823）の手水鉢がある。毎年10月には例祭が行われ、御神楽奉納、子供神輿などのほか、東三河の伝統である手筒花火奉納も行われる。



さ

■ 桜並木（梅田川） さくらなみき うめだかわ 二川町他

静岡県境から三河湾に向かって二級河川の梅田川が流れている。旧東海道二川宿や二川駅の南側辺りでは、川の兩岸に桜並木が続いている。春になると淡いピンク色の花が咲き誇り、水辺の菜の花とともに生き生きとした景観を見せてくれる。



し

■ 松音寺 しょうおん じ 二川町

二川宿の山側にある曹洞宗の寺で、創立は、康永・貞和年間（1342～50）と伝えられており、当時の宗派は不明である。明暦年間（1655～58）に遠州白須賀の蔵法寺の末寺となった。江戸時代には、大通行の際の休泊所や、本陣からの避難所に指定されていた。旧街道の東の枡形から寺に向かって瀬古道がつながっている。



しょうか こまや
■ 商家「駒屋」 二川町

江戸時代に二川宿で商家を営むかたわら、問屋役や名主などを務めた田村家の遺構である。江戸時代から大正時代に建てられた8棟の建物からなり、宿場町の商家の一般的な形式を残していることから、市の有形文化財に指定されている。平成24年から3か年かけて改修復元工事が行われ、二川宿の歴史と文化の継承発展の場、地域の交流や活動の場として活用するため、広く公開されている。



た

だいがんじ
■ 大岩寺 大岩町

もとは岩屋山麓にあって、岩屋観音に奉仕した六坊の一つと伝えられ、元和8年(1622)、遠州浜名郡宿芦寺の通山和尚により再興され、曹洞宗に改宗し、のち正保元年(1644)現在地に移転した。岩屋観音に寄進された絵馬・黄金灯籠等の文化財を所蔵している。



に

にしこまや たむらけ
■ 西駒屋田村家 二川町

二川宿本陣の正面にある明治時代に建築された町家で、醸造業を営んでいた。街道に面して建ち、床上部正面に出格子をたて、上下階とも軒を出桁造とし、宿場町の風情を醸し出している。主屋と土蔵が国の登録有形文化財になっている。



は

はたごや せめいや
■ 旅籠屋「清明屋」 二川町

江戸時代後期から明治期まで二川宿で旅籠屋を営んだ倉橋家の遺構で、改修復元工事により主屋・繋ぎの間・奥座敷等を江戸時代の姿に復原し、一般庶民の宿であった建物を公開している。市の有形文化財に指定されている。



ふしみいなり
 ■ 伏見稲荷 大岩町

明治43年(1910)に京都伏見稲荷大社より分霊を奉載したことに由来する。境内は山の斜面に沿っており、森の中に建ち並ぶ多数の赤い鳥居をくぐりながら巡礼できる。また、境内にある御衣黄桜は、春になると、名の由来になっているような、平安時代の公家装束を連想させる淡緑色の美しい花を咲かせる。



ふたがわしゆく
 ■ 二川宿 二川町

江戸日本橋側から数えて33番目の宿場町で、慶長6年(1601)、徳川家康が東海道の宿場を設置した当初からの宿といわれている。当初は、離れていた二川村と大岩村の二村で一宿分の役目をはたしていたが、正保元年(1644)に両村が現在地に移転し、二川と加宿大岩からなる一続きの宿となった。比較的小規模な宿場町で、まち並みの長さは、12町16間(約1,340m)であった。戦災から免れ、当時のまち割りや本陣などの歴史的建築物が今でも残っている。



ふたがわしゆくほんじん
 ■ 二川宿本陣 二川町

文化4年(1807)から明治8年まで本陣職を勤めた馬場家の遺構で、主屋・玄関棟・書院棟・土蔵等を江戸時代の姿に復元し、大名や公家など貴人の宿舎であった建物を一般公開している。市の史跡に指定されており、江戸時代の旅に関する資料を展示する資料館を併設している。隣接して市の有形文化財に指定されている旅籠屋「清明屋」があり、併せて見学できる。



ふたがわはちまんじんじゃ

■ 二川八幡神社 二川町

永仁3年(1295)、鎌倉の鶴岡八幡宮から勧請したのが創立と伝えられており、二川の氏神である。毎年10月の例祭では、江戸時代の末期から続いているといわれる神輿渡御がおこなわれ、御神体を載せた御神輿が多数の従者と三台の山車を従えて町内に練り出す。市内で山車が出るお祭りとしては、最も歴史あるものと言われている。境内には、街道の東の枡形に文化6年(1809)に建立されたといわれる秋葉山常夜灯がある。



み

みょうせんじ

■ 妙泉寺 二川町

身延山久遠寺第五世の日台上人が、貞和年間(1345~50)に、現在地より東北に小庵を建てて教蔵庵と名付けたのがはじまりである。その後、信竜山妙泉寺と改称し、身延山から吉見(湖西市)の妙立寺の末寺となった。さらに万治3年(1660)、二川の現在地に移転し、延竜山妙泉寺と改めた。境内には、松尾芭蕉の句碑「紫陽花塚」がある。



E. 南部田園周辺

この地域は、ゆるやかな起伏のある大地にパッチワークのように広がるキャベツ畑などの田園により形成されています。

田園地帯には、集落や社寺が点在し、鎮守の森などの平地林が田園の背景になっています。また、シダレザクラのある野依八幡社や天伯湿地などの景観資源も見られます。



南部の大地に広がるキャベツ畑（西赤沢町付近）

E 南部田園周辺・F 表浜沿岸周辺



い

■ 一里山の一里塚 いちりやま いちりづか 東細谷町

一里塚は、江戸時代に東海道の設けられた塚で、江戸日本橋を起点に一里（約 3.9 km）ごとに土を盛り、マツやエノキを植えて築かれた。現在の一里山の一里塚は、国道 1 号に面して、雑木で覆われたこんもりとした塚が残っており、前面には秋葉社と地藏尊の祠がある。昭和 50 年に市の史跡に指定され保存されている。



う

■ 梅田川 うめだかわ

本市の南部地域を東西に流れる二級河川で、船渡町付近で三河湾に注いでいる。河口付近は、三河湾の潮の干満の影響を受ける汽水域で、干潮時には川の両岸に干潟が現れる。国道 259 号線の植田橋より上流部にはヨシ原が広がっており、二川宿の南辺りには両岸に桜並木がある。



お

■ 大崎城址 おおさきじょうし 船渡町

大崎城は、戦国時代に、牧野氏と今橋城の争奪を繰り返していた戸田氏が、田原に逃れた後に築いた城である。城址は、龍源院の北東にあたり、現在も、曲輪、堀、土塁などの遺構が確認できる。特に堀は、深さが約 8m あり、吉田城の本丸周囲の堀に匹敵する。



<

■ 車神社古墳 くるまじんじゃ こふん 植田町

古墳時代後期の前方後円墳で、梅田川下流域を支配した豪族の墓であると考えられている。後円部上に車神社の社殿があるため正確な規模は分からないが、現状で全長約 33m、後円部の径約 17m、前方部の長さ約 16m である。古墳と神社との直接の関係はなく、古墳であることを知らずに神社が建てられたといわれている。



こ

■ 広大な畑地 こうだい はたち

豊橋市の南部には、ゆるやかな起伏のある大地に、キャベツ畑などの田園が伸びやかに広がっている。豊川用水の豊かな水と温暖な気候に恵まれ、本市は全国トップクラスの農業産出額を誇る産地となっており、南部の農地は、その基盤となっている。



さ

■ 真田神社（大根流し） さなだ じんじゃ だいこんなが 杉山町

杉山町の住宅地と水田地帯の間にある神社で、毎年12月に行われる「真田祭」は、喘息などの難病が完治するといわれており、多くの人が集まる。祭りは、江戸時代、喘息に悩まされていた男が、真田神社の前を流れる川に「真田幸村様行き」と書いた大根を流すと喘息が完治した、という伝説が始まりといわれている。かつては、大根を流していたが、今は大根を描いた板を流すことになっている。



■ 沢渡池 さわたりいけ 大岩町

大岩地域の住宅地にある農業用のため池で、池の中には浅瀬があり、ヨシなどが生えている。冬にはカモ類をはじめとした水辺の鳥類が集まる。隣に反茂池があり、「反茂池と沢渡池」の民話がある。昔、遠くからやってきた大男が、一服するために腰をおろしたところに、大きな尻跡がふたつ並んで窪んでつき、雨水が溜ってふたつの池になった、といわれている。



し

■ しあわせ地蔵 しぞう 東大清水町

ふるさとの民話にもなっているお地蔵さまで、田園地帯のなかの道端に小さな祠がある。畑仕事のおばあさんが、長い間埋もれていたお地蔵さまを発見したことから、地域の人達により、見晴らしのよい場所に祠を設けて安置された。いつも千羽鶴やお供え物が供えられ、地域の人達に大切にされている。



た

■ 大平寺 老津町

真言宗の寺として平安時代の終わり嘉応年間（1169～71）に建てられ、東観音寺、田原長仙寺を結ぶ有力な寺の一つであったといわれる。戸田家、今川家より寄進状を受け栄えた。負け戦で逃げ込んだ徳川家康を助け、現在もそれを伝える「不開の門」がある。参道には、樹齢300年以上のイチョウの巨木がある。



■ 高師小僧 西幸町

高師台地で産出する管状や樹枝状など、様々な形をした褐鉄鉱のかたまりをいう。地下水に溶けていた鉄分が、地中の根や茎のまわりに集まり固まったもので、土が雨で流された後に露出している様子が、幼児や動物に似ていることから名付けられた。産出した代表地が、県の天然記念物に指定されている。



■ 高師原

JR 東海道線と豊橋鉄道渥美線、梅田川に囲まれた洪積台地で、標高は20～30mある。かつてはやせた地味の原野であり、明治41年（1908）に天伯原とともに旧陸軍の演習地となった。第二次世界大戦後は、深刻な食糧事情の解決や、戦災・復員・引揚者の就農のために、軍用地を民間へ開放し開拓が進められた。その後、都市化が進行し、現在は、ほとんどが住宅地になっている。



■ 高縄城址 老津町

戸田宗光が大津（現在の老津）に入り、領主となったのが文明7年（1475）であることから、そのころに築城されたと考えられる。城址は、家政高等専修学校敷地とその周辺で、現在は空堀と土塁の一部を残すのみである。城郭の規模は東西230m、南北120mで、外側を土塁と堀が取り巻き、西側に外曲輪らしきものがあつたと思われる。



たん も いけ
■ **反茂池** 大岩町

大岩地域の住宅地にある農業用のため池で、池の中には浅瀬があり、ヨシなどが生えている。冬にはカモ類をはじめとした水辺の鳥類が集まる。隣に沢渡池があり、「反茂池と沢渡池」の民話がある。昔、遠くからやってきた大男が、一服するために腰をおろしたところに、大きな尻跡がふたつ並んで窪んでつき、雨水が溜ってふたつの池になった、といわれている。



ち

ちゃばたけ おか
■ **茶畑の丘** 杉山町

豊橋の南部には、お茶の生産地が点在しており、田原市との境にあたる杉山町の南端部では、ゆるやかに起伏する丘に茶畑が広がっている。丘の上には、青い空を背景にオレンジ色の屋根の製茶工場が建ち、印象的な景観を生み出している。



て

てんばくしつ ち
■ **天伯湿地** 天伯町

天伯原と呼ばれる台地にある小さな湿地。天伯山神社の湧水を水源とし、シラタマホシクサなどの湿原植物やハッチョウトンボなどの貴重な生物を見ることができる。かつては、周辺に同様の湿地が点在していたが、開拓により消失してしまったため、かつての天伯原の景観を残す大切な存在になっている。



てんばくさんじんじゃ
■ **天伯山神社** 天伯町

昭和 22 (1947) 年、第 2 次世界大戦後天伯原の陸軍演習場に入村した人たちが社を建てて天照大神を祀り、南高田 (天伯町高田地区) の氏神としたものである。昭和 50 (1975) 年社殿を造営し、境内に開拓記念館が建てられた。東側の斜面には天伯湿地がある。



てんぱくぼら

■ 天伯原

梅田川以南から太平洋岸まで広がる洪積台地で、標高は太平洋側が 80~60m と高く、北西の三河湾に向かって低くなり、標高 20m ほどになる。かつてはやせた地味の原野であり、明治 41 年（1908）に高師原とともに旧陸軍の演習地となった。第二次世界大戦後は農地として開拓が進められ、復員軍人や戦災者などが入植した。昭和 43 年（1968）に豊川用水が通水すると、野菜・花き・果実・畜産品などの有力な供給地となった。



と

とよがわようすい

■ 豊川水路

豊川用水は、主に東三河地域の田畑や工場に水を供給する水路で、豊橋市の南部には、渥美半島の先端まで送水する東部幹線水路が通っている。豊橋市の南部は、水に乏しいやせた土地であったが、昭和 43 年に用水路が通水したことで、全国有数の農業産出額を誇る農業地帯になった。



とよはしそうごうどうしよくぶつこうえん

ぼーく

■ 豊橋総合動植物公園（のんほいパーク） 大岩町

約 40ha の広大な敷地に、動物園、植物園、遊園地、自然史博物館が整備されたレクリエーションと学びの施設で、周辺からは緑の森のように見える。園内には、東部丘陵の山並みを借景にしたアフリカ園やモネのスイレンを導入した池など、特徴的な景観がある。



な

ななまたいけ

■ 七股池 杉山町

上池と下池からなる農業用のため池で、七つの股の形をしていることから名がついたと言われている。池の背後には雑木林があり、池には鳥やトンボをはじめ、様々な生き物たちが生息している。池の周囲には散策路が整備され、周辺住民の憩いの場になっている。



の

のよりはちまんしゃ しだれざくら
■ **野依八幡社（シダレザクラ）** 野依町

田園地帯の集落にある由緒ある神社で、鎮守の森に包まれている。境内のシダレザクラは、樹齢 350 年以上と言われ、市の天然記念物に指定されている。シダレザクラは一般的に山地に育ち、平地に育つのは珍しい。花は他の桜より早く咲き、四方に垂れ下がる姿は見事である。



は

ばん ぼ ちようせい ち ばん ぼりよく ち
■ **万場調整池・万場緑地** 西赤沢町

万場調整池は、豊川用水東部幹線水路の調整池で、満水面積 343ha、有効貯水量 500 万 m^3 の規模を有する人口池である。調整池周辺には、約 10ha の万場緑地が整備され、遊具や散策路がある。緑地内の展望台からは、池の向こうに沈む美しい夕日が眺められる。



み

み ゆきじん じゃ はなまつり
■ **御幸神社（花祭）** 西幸町

三河国一宮砥鹿神社を本社と仰ぐ神社で、昭和 24 年（1949）に創建された。氏子の多くが、佐久間ダムの建設に伴い水没した北設楽郡豊根村からの移住者であったことから、毎年 1 月に五穀豊穰と新年の祝福を願う花祭りが行われる。



や

や はしらじん じゃ
■ **八柱神社** 東細谷町上大附

創立年代ははっきりしないが、鎌倉時代に伊勢神宮領であった頃すでに神社が置かれていたといわれる。時代は下り、徳川家康が東観音寺に参詣した時、当社に立ち寄って武運を祈願し、神田を寄進したとも伝えられている。元禄 14（1701）年津波のため今の地に遷座された。室町時代の鬼瓦が、市の有形文化財に指定されている。



りゅうげんいん は いちよう
■ 龍源院のお葉つきイチヨウ 船渡町

普通のイチヨウでは、種子と葉が枝先に別々につくが、このイチヨウの種子は葉に直接種子がつくものがある。枝の付き方も珍しい。枝分かれする幹には乳（鍾乳石のように垂れたこぶ）と呼ばれる木根を持ち、雌木では珍しい。樹高・枝張りとも 20m を超え、推定樹齢 450 年以上とされる古木で、県の天然記念物に指定されている。



F. 表浜沿岸周辺

この地域は、アカウミガメが産卵に訪れる美しい砂浜と常緑広葉樹の海岸林により形成されています。

西に向かうにつれて、外海の荒波と風が長い年月をかけてつくりあげた荒々しい海食崖が見られ、海岸からは、遠州灘（太平洋）を一望することができ、自然の雄大さを感じさせます。また、台地の上には海岸林に包まれた落ち着いた集落が点在し、東観音寺などの歴史的資源も見られます。



砂浜と海食崖が続く表浜海岸（高塚町付近）

※ マップは P72 を参照

お

■ おのだけじゅうたく 小野田家住宅 高塚町

表浜沿岸の海岸林の中に建つ歴史ある家で、長屋門を有し、風格のある屋敷構えを見せている。主屋は、明治期の建築で、寄棟造棧瓦葺の2階建てで西に増築部の座敷棟を接続している。長屋門は、主屋の南方に建ち、入母屋造棧瓦葺、嘉永2年（1849）頃の建築である。主屋と長屋門は、国の登録有形文化財に登録されている。



■ おもてはまかいがん かいがんりん かいしよくがい すなはま 表浜海岸（海岸林・海食崖・砂浜）

太平洋に面する豊橋市南部の海岸で、砂浜と海食崖が続く雄大な自然景観が広がっている。西側半分は、荒々しい海食崖が続き、三河湾国定公園に指定されている。東側は、比較的広い砂浜となだらかな台地状の海岸林が見られる。海岸林は、つややかな葉の常緑広葉樹が主体で、潮風や飛砂から内陸部を守っている。



き

■ きくじろう なつ さかみち 「菊次郎の夏」の坂道 小松原町

映画「菊次郎の夏」のロケ地となった坂道で、太平洋に近い田園地帯にある。潮風を感じる田園地帯のなかに、緑に包まれた一本の静かな道が通り、急な下り坂から上り坂になる印象的な景観がある。



さ

■ さと ささゆりの里 伊古部町

太平洋岸の海岸林のなかに、約 3,000 本のササユリが植えられ、初夏の開花時期には「ささゆりの里まつり」が行われ、多くの人々が訪れる。地元の保存会の方々が大切に育て、海岸林の中に植える活動を続けており、かつて群生していたころの景観が見られる。



し

■ じびきあみ 地引網 (表浜海岸)

浜から網船を出し岸に対して半楕円形に網を張り、浜から引き綱を引いて網の中に魚を追い込んでいく漁法である。かつては漁業として成り立っており、網を引くには、人手と牛や馬などの家畜が使われていた。現在は、観光地引網が4月上旬から10月下旬に行われている。



た

■ 太平洋

延々と繋がる砂浜に沿って、繰り返し波が打ち寄せる渚が続いている。遠くに目を向けると、水平線がゆったりと弧を描いて見える。一年の始めには水平線から初日の出が見られる。また、冬には水平線に日が沈み、海を鮮やかに染める。



■ たかつかりよくち 高塚緑地 高塚町

表浜海岸の砂浜と国道42号に挟まれた都市計画緑地で、海食崖の上に常緑広葉樹の樹林地が広がっている。自然度が高い植生で、海岸近くの樹木は強い風の影響を受けて一定方向に木が傾いている。キツネ、タヌキ、アナグマ、イタチ、ニホンノウサギなどを見かけることがある。三河湾国定公園にも指定されている。



■ たかとよぎょう 高豊漁港 (表浜海岸)

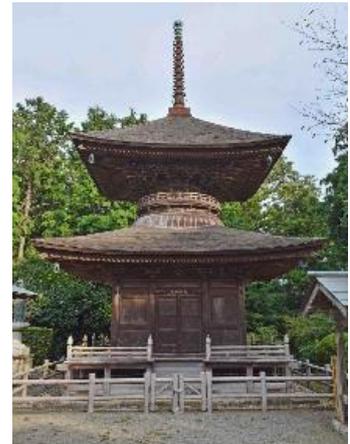
表浜海岸にある漁港で、延長約4kmにわたる砂浜海岸が高豊漁港に位置づけられている。海岸は水産庁の所管で市が管理している。簡素な船置き場がある程度で、自然の浜から船の出入りをしているため、雄大な自然景観が見られる。砂浜の背後には高さ約40~60mの海食崖がと緑の海岸林が続いている。



と

■ 東観音寺 (多宝塔) とうかんのんじ たほうとう 小松原町

行基が天平5年(733)に建立・開山したと言われる東三河随一の名刹。宝永4年(1707)の大地震による津波のため、集落もろとも大きな被害を受け、正徳5年(1715)頃に再建、現在地に移転された。境内には国の重要文化財に指定された多宝塔がある。多宝塔の建築様式は、鎌倉時代に宋から伝来した唐様に従来の和様を加わった折衷様式で、大永2年(1522)の建築である。



ふ

■ 二川漁港 ふたがわぎょこう (表浜海岸)

表浜海岸の静岡県寄りにある漁港で、延長約5kmにわたる砂浜海岸が二川漁港に位置づけられている。海岸は水産庁の所管で市が管理している。簡素な船置き場がある程度で、自然の浜から船の出入りをしているため、雄大な自然景観が見られる。二川漁港より砂浜の幅が広く、背後は海岸林の緩やかな段丘になっている。



■ 参考文献

- ・豊橋百科事典（編集：豊橋百科事典編集委員会、発行：豊橋市、平成 18 年 12 月）
- ・豊橋の史跡と文化財（編集・発行：豊橋市教育委員会、平成 10 年 3 月）
- ・豊橋の自然探検（発行：豊橋市、平成 28 年 7 月）
- ・豊橋市制施行 100 周年記念 校区のあゆみ（発行：豊橋市総代会、平成 18 年 12 月）

- ◆ 発行：豊橋市役所 都市計画部 都市計画課
令和 3 年 9 月
〒440-8501 豊橋市今橋町 1 番地
TEL：0532-51-2615 FAX：0532-56-5108
E-mail：toshikeikaku@city.toyohashi.lg.jp
- ◆ 写真撮影：宮城谷好是・水谷明博・白井康裕・豊橋市
- ◆ 描画（豊橋の景観）：かんだあさ

2021

豊橋市景観資源ガイドマップ

令和3年9月